

○ワークショップ  
「アジアの企業経営・イスラム圏アジア諸国の経営」

開催責任者 ビジネス研究科 コンダカル・ミザヌル・ラハマン

2015年1月31日

南山大学名古屋キャンパス J棟 4階 415 会議室



ワークショップは以下のとおり、開催された。

◇報告者および題目

1. 吉田浩一（株式会社吉桂 代表取締役社長）  
「わが社のアジアビジネス展望」
2. 玉野直樹（株式会社玉野化成 代表取締役社長）  
「インドネシア工場進出における反省点」
3. 倉沢 幸（立教大学 教授）  
「マイクロクレジット利用者の変貌：バングラデシュ現地調査を終えて」
4. 大矢釦治（名古屋産業大学 名誉教授）  
「起業家育成、熟練の形成と移転：ラオスの織物工房を事例に」
5. David Potter（南山大学 教授）  
「Aspects of the Charitable Sector in Islamic Asia」

6. Mohammed ROKONUZZAMAN (名古屋大学大学院国際開発研究科博士課程 /Bangabandhu Sheikh Mujibur Rahman Agricultural University 助教授)・  
KHONDAKER Mizanur Rahman (南山大学 教授)  
「Agri-business Management through Microcredit in Bangladesh」
7. 佐原賢治 (株式会社ジェイエイシーリクルートメント 事業本部 海外進出支援室 室長)  
「ASEAN の日系企業における人事課題」

#### ◇ワークショップの討論内容

・吉田報告：社長である発表者本人は、自社のアジアビジネスの展望、経営状況や課題について述べた。自社は家具のメーカーとして東海地方の代表的企業である一方、日本全体でも人気を持ち代々ビジネスを営んできた。数年前にタイへ進出し、現地工場を創立した。現地人の採用、現地での生産、原材料の調達、現地や他外国への市場開発、日本向けの輸出など経営を紹介し、それらを囲む諸問題について論じた。また、タイでのものづくりを成功するためにイタリアの会社との戦略上の提携やそのあり方も明らかにした。

・玉野報告：本発表者も社長で、自社のインドネシア進出の背景、現地子会社の創立、現地採用、現地労働者や経営者の教育訓練、労使関係、本社からの派遣などの現状や課題などについて述べた上、250人以上の現地社員の採用や効率的扱いに直面する文化や労務習慣上の特徴など明らかにした。インドネシアにおける経済発展とインフラ発展の間のミスマッチの結果、進出する外資系企業の悩みなども明らかにした。

倉沢報告：ノーベル平和賞を受賞されたグラミン銀行、ブラクやアサなどの世界有名な非政府組織がバングラデシュの農村社会においてマイクロクレジット革命を起こし、女性や貧困水準以下のクラスを対象にしてマイクロクレジットを供与して経済や社会開発活動を形成する。こうしたマイクロクレジット利用者の変貌を、長期的に行なわれた研究活動によって検討し、明らかにした。その利用者は単の貸方から経済的に自立になる一方、識字、教育、起業家、草の根レベルの政治活動などの多方面におけるかれらの社会的地位の向上が著しい。

・大矢報告：「手織物部門における技能形成と伝承：ラオス伝統染織工房ペンマイギャラリーの事例」のテーマでラオス農村における家内起業家の促進、家内企業の経営・技術・マーケティングの諸側面、熟練形成と移転などについて明らかにした。非常に遅れている農村地域でも代々における指導によって熟練や経営ノウハウが累積され、親から子、子から孫への技術が移る環境と慣習が存続する。そこで、日本からのボランティア団体の指導者として大学教授の経験を持った発表者本人が資本・技術・経営において行なわれて来た指導などのことを発表した。

・David Potter 報告：「Aspects of the Charitable Sector in Islamic Asia」のテーマでイスラム圏アジア諸国における非営利慈愛部門の形成、持続、経営の諸側面の現状と課題を明らかにした発表であった。マレーシア、インド、パキスタンやバングラデシュなどの5カ国の現状の検討や分析から、こうした国々ではキリストや他宗教との並びにイスラム教の慈愛組織が多く存在すること、ザーカト（喜捨）・サダクァー（寄付）・クーコフ（寄贈）などを用いてこうした組織が運営することを明らかにした。また、こうした組織の存続背景にはイスラム教の慈愛の伝統が根強いことにも強調した発表であった。

・佐原発表：アセアンの日系企業における人事管理課題、すなわち、高離職率、幹部人材の留意点、日本国内での留学生の採用・研修による現地派遣、上昇する人件費、教育訓練、文化摩擦の留意点などを明らかにした。最新の調査データと国内外の事例をもとに現地での人材確保の要点も指摘した。

・Rokonuzzaman・Khondaker 報告：「Agri-business Management through Microcredit in Bangladesh」のテーマでバングラデシュの農業関連零細・小規模産業、すなわち、農機具生産、農産物の加工、貯蔵、運送、家禽、飼育場などの経営について現地調査に基づく発表であった。こうした企業は国内外のNGOからマイクロクレジットを受け、事業を発足するが、経営の様々な問題のため適切な成果を遂げることが出来ない。本報告は、こうした起業家向けの教育訓練、製品市場開発、基礎経営、経理、マーケティングなど諸側面におけるサポート体制が緊急に必要であると強調する。

#### ◇研究成果発表

報告者が各自、学術誌などに論文投稿や学会報告を計画している。